

# エコ活動が医療貢献になる！？

皆さんはボランティア活動やエコ活動などをされたことがありますか？ 気になりつつもこの足を踏んでいる方も多いのではないのでしょうか。今回は、身近なエコ活動が医療貢献につながっているという、お話を紹介したいと思います。

## 《エコキャップ活動》

「エコキャップ活動」という取り組みをしている事業場があります。この「エコキャップ活動」は、ペットボトルのキャップを集めてリサイクル業者に売却し、その代金でワクチンを必要としている国にユニセフを通じて届けるという活動です。

＊ワクチン 病原菌によって引き起こされる感染症の予防や、今後かからないようにするために、投与する医薬品。ワクチン自体はウイルスや細菌の毒性をなくしたか、もしくは毒性を弱めた病原体を材料に作られる。

## 《世界の医療状況》

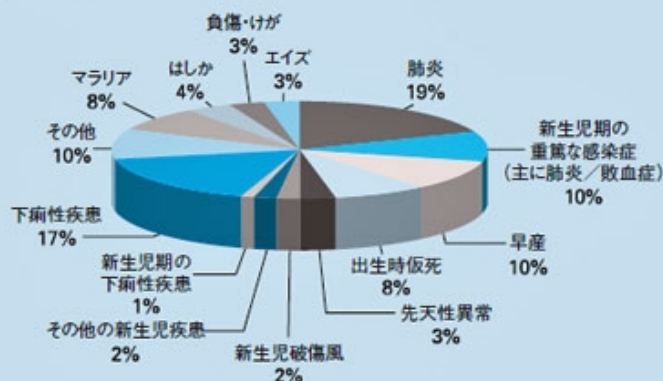
ユニセフが今年9月に発表した5歳未満児の死亡率に関する最新データ(推計)によると、1990年時点で90人／出生1,000人であった死亡数が、2008年の5歳未満児の死亡数は65人／出生1,000人になったということです。これは1990年の5歳未満児の死亡数が1,250万人から、2008年には推定880万人に削減されたことを意味します。

その背景には、はしかワクチンをはじめとする予防接種、マラリア予防のための殺虫剤処理を施した蚊帳の使用、ビタミンAの配布など、保健分野での重要な支援が増加したことによるものと考えられています。しかし世界では未だに予防可能な病気などが原因で毎日2万6,000人を超える幼い命が失われているのが現実です。

＊ビタミンA レチノールやカロテンなどを含む総称。目の粘膜産生などにも関わっていて、目を乾燥から守っている。不足すると薄暗いことで見えづらくなる夜盲症になったりする。また免疫力と高めるといことも分かっている。

### 世界の5歳未満児の死因

栄養不良が関係する5歳未満児の死亡は全体の50%に達する



出典：World Health Organization and UNICEF.

【参考文献：ユニセフ世界子供白書2008】

一方、「日本の状況」というのは原則無料で、すべての小児・乳幼児を対象に三種混合、BCG、ポリオ、麻疹・風疹混合のワクチン摂取がなされています。(2009年4月1日現在)

ワクチン自体は、数十円～数百円／本というものです。国・地域によっては、たったこれだけの金額のワクチンの購入すらできないところもあれば、国土が山岳地域で人々が分散していて十分な医療施設・医療機器がない、冷蔵保存しながら運搬することができない、という事情もあります。こうした国々・地域を国連やユニセフ、世界各国のNGOがサポートしているのです。

世界のワクチン別予防接種率(抜粋)				
	結核 (BCG)	3種混合	ポリオ	はしか
サハラ以南のアフリカ	82	72	74	72
中東と北アフリカ	92	91	91	89
南アジア	82	63	66	65
東アジアと太平洋諸国	91	89	89	89
ラテンアメリカとカリブ海諸国	96	92	92	93
日本	-	99	97	99
世界	87	79	80	80

【出典】 ユニセフ2008年世界子供白書(P.123~125)

＊詳細な情報は

国立感染症研究所 感染症情報センター <http://idsc.nih.gov/jp/vaccine/vaccine-j.html>

ユニセフ <http://www.unicef.or.jp/index.html>

## エコキャップ活動を実践されている 門司港腎クリニック院長 田中秀欣先生にお話を伺いました。

### 【門司港腎クリニック院長 田中 秀欣先生】

Q. 先生が「エコキャップ活動」を始められた、きっかけを教えてください。

実は私の子供から教えてもらったというのが始まりです。目的が子供たちにも分かりやすく無理なくできるということで、熱心に取り組んでいらしたので、私も気軽に始めました。もう参加して5年は経つでしょうか。最初は院内に箱を置いて活動をしていましたが、その後は私が利用しているスポーツジムにも置かせていただくことにしました。案外、スポーツジムでペットボトルは飲まれているんですよ。たくさん送って小学生さんから感謝状をいただきました。



Q. 院内で活動をされて、患者さん・スタッフの方からの反応はいかがですか？



スタッフに限らず、患者さんも、嬉しそうな顔でキャップを持ってこられます。声をかけると賛同してくれる方が多く、自然に活動の輪が広がっているようです。

私どもは、腎臓病、特に人工透析を中心とした内科診療所です。透析患者様は、腎不全に至り、生命維持のために週3回4時間から5時間の治療を受けています。透析を始める平均年齢は66歳前後です。子育てや仕事がひと段落して、第二の人生を送ろうとするときに、治ることのない病を抱え、時間的にも空間的にも制約をうける生活を始めるわけですから、やはりつらい日々だと思います。私たちは、患者様の伴走者としてご一緒にしていますが、今日の治療がきつくとも、明日、患者様がご家族と一緒に笑顔でいていただきたいと願って診療しています。キャップ収集を始めたころ、治療を終えた患者様が「先生持ってきたよ」とキャップを差し出された時の笑顔がとても生き生きしているのに驚き、とても嬉しくなったことを思い出します。私たちにとって、患者さんの笑顔というのは活動の原動力ですね。

### 「命を助ける」という思いに共感、「エコキャップ活動」には力がある

この「エコキャップ活動」には、キャップを集めることで「ワクチンがなければ助からない命」を救うことができるという希望があると思います。ジムでボトルを飲み終えた方がキャップを入れたときに、なんとなく嬉しそうな顔をされていました。ひとりの透析患者さんは、「私たちは透析で社会にお世話になっているから、できることはやらにゃと思うし、自分のできることでお役に立てるのならと近所の人にも声をかけています」とおっしゃいました。みなさんの笑顔の裏に



「良いことができてよかった。自分の小さな一つの活動が誰かの命を救うこといつながる」という喜びが隠されていると思います。この活動は、心に他者を思いやるやさしい気持ち呼び起こしてくれます。それがこの「エコキャップ活動」の素晴らしさであり、多くの方々に共感を与える「エコキャップ活動」の力だと思います。